

特別支援学校中学部生徒がスケジュールに沿って行動するための指導

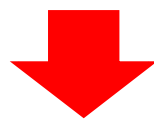
①対象生徒の実態

- 中学部生徒 知的障がい
- 言葉やジェスチャーによるコミュニケーションを行う場面は少ないが、したい行動がある時や困った時に、教員に視線を向けたり単語で伝えたりできる。
- 興味・関心があるものに対して、その場の状況に関係なく確認しに行くことがある。
- 苦手な状況の時(他の児童生徒の泣き声が聞こえた時、難しい課題に取り組んでいる時、課題の量が多い時、間違えた時、教員から指摘があった時、初めての活動で見通しが立たない時、本人が思う通りにできなかった時)と、原因が特定しづらい時に活動場所から飛び出す。
- 飛び出す行動を制止した教員や、移動した先にいる他の生徒をひっかく。
- 不安定になると不適切な行動をする時がある。(ティッシュの中身を捨てる、液体石けんを撒く、タイマーを投げる等)

②困っている行動（主訴）

【担任のニーズ】

他害や飛び出しをせず、落ち着いた学校生活を送ってほしい。



【第1回コンサルテーションまでに校内で検討・実践】

「介入①」通学タクシー座席の変更・約束の設定

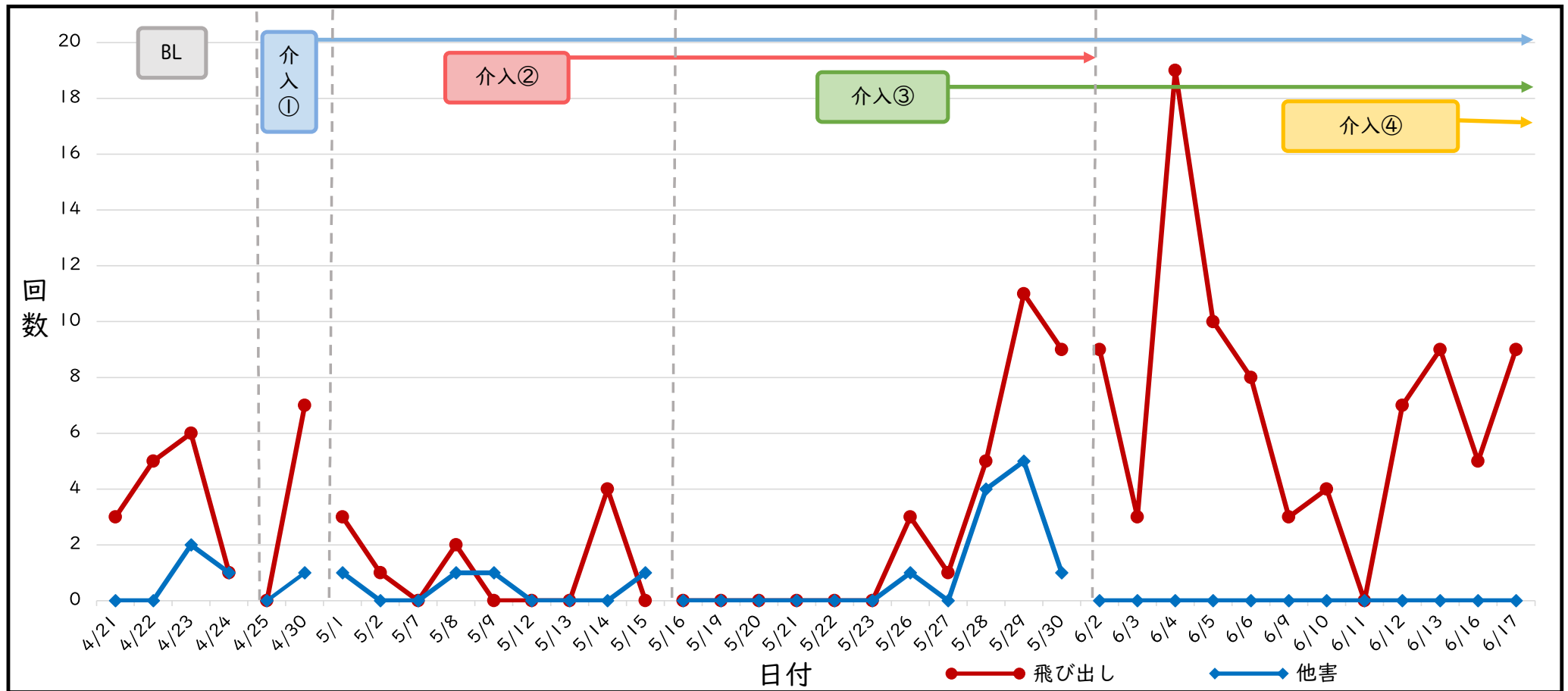
「介入②」カームダウンエリアの設置

「介入③」不安定になりやすい授業はクラスメイトと活動場所を分ける

「介入④」教室を出るときの報告カード・約束の導入

以上の4点を、4月下旬～6月中旬まで実践。6月初旬からの「介入④」以降、飛び出し行動は増えたが、他害の回数は0を維持していた。

③実践結果(第1回コンサルテーション前)



飛び出し・他害行動の1日の回数

④アドバイザーからの助言(第1回コンサルテーション)

- 「他害」「走り出し」といった行動は生徒の将来の為にも絶対になくさなければならない。
- 「他害」がある場合は、他の生徒と分けて指導することも必要である。
- 教員との対面での学習や難しい課題をするよりも、簡単な作業的な活動をするべきである。
- 現在、生徒の好きなようにさせて他害がない状態なので、教員の指示に従って他害がない状態へ変えていくべきである。
- 生徒のしたい活動をスケジュールに組み込み、生徒にとってメリットのあるスケジュールに変えるべきである。
- スケジュールの中で自由な時間が多いよりも、する活動が決められている方が、何をすべきかが分かりやすく、決まった行動をすると褒められる為、落ち着いて過ごせる生徒もいる。生徒のスケジュールを細かく提示するべきである。

指導目標を「スケジュールに沿って行動できる」に決定

⑤ 第1回コンサルテーションを受けて

指導手続き

- これまでは他害が起こりそうな授業は、他の生徒と別室での学習としていたが、行事を除く全ての授業を他の生徒と別室で行うこととした。
- 登校～下校まで、全ての活動にスケジュールを提示した。
- パートスケジュールの置き方等にこだわりが見られた為、簡単に終了チェックができるようスケジュールの形を変更した。
- スケジュールを折り込み式に変更し折り込むと花丸が提示されるようにした。

スケジュール



⑤第1回コンサルテーションを受けて

指導手続き

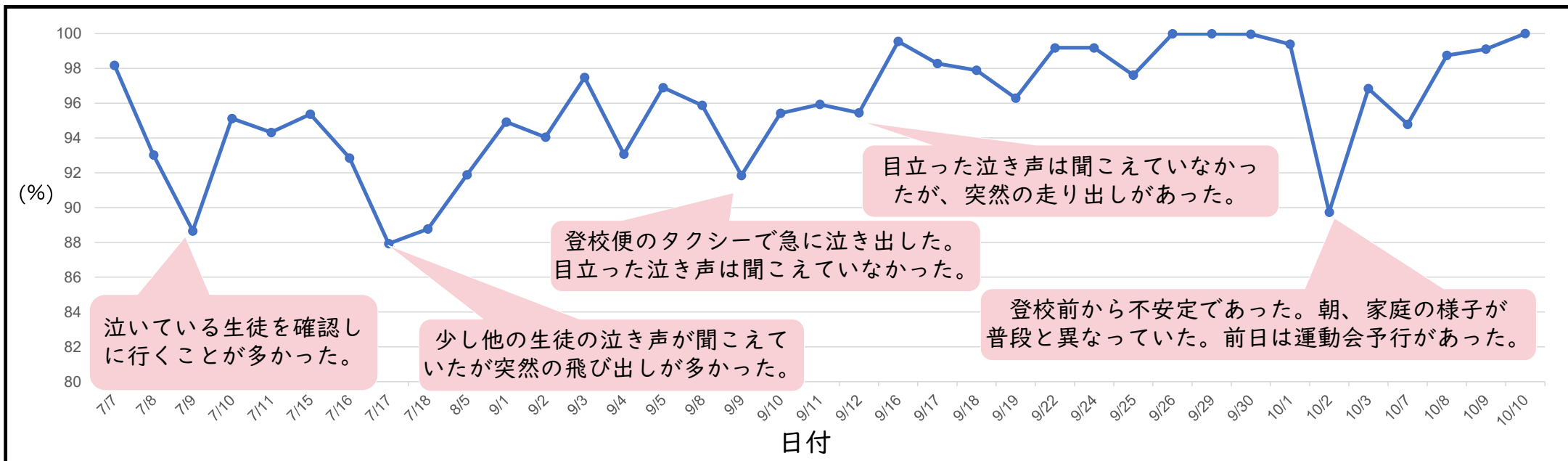
- スケジュールの活動内容を生徒にとって簡単な活動にし、活動の間に好子を組み込んだ。（干し芋を食べる、ドライフルーツを食べる、音楽室へ行く等）
- 活動は生徒が一人でできるものにして、教員の指導が無いように設定した。
- 活動の長時間の停滞や頻回な逸脱等の様子が見られた課題は除外した。
- スケジュールと異なる行動（教室内を歩く、窓の外を覗く等）を30秒以上している時は、プロンプトとして好子を提示し、スケジュールの活動を再開するよう促した。

活動内容



スケジュールとボックスの数字をマッチングして活動

⑥実践結果（1）

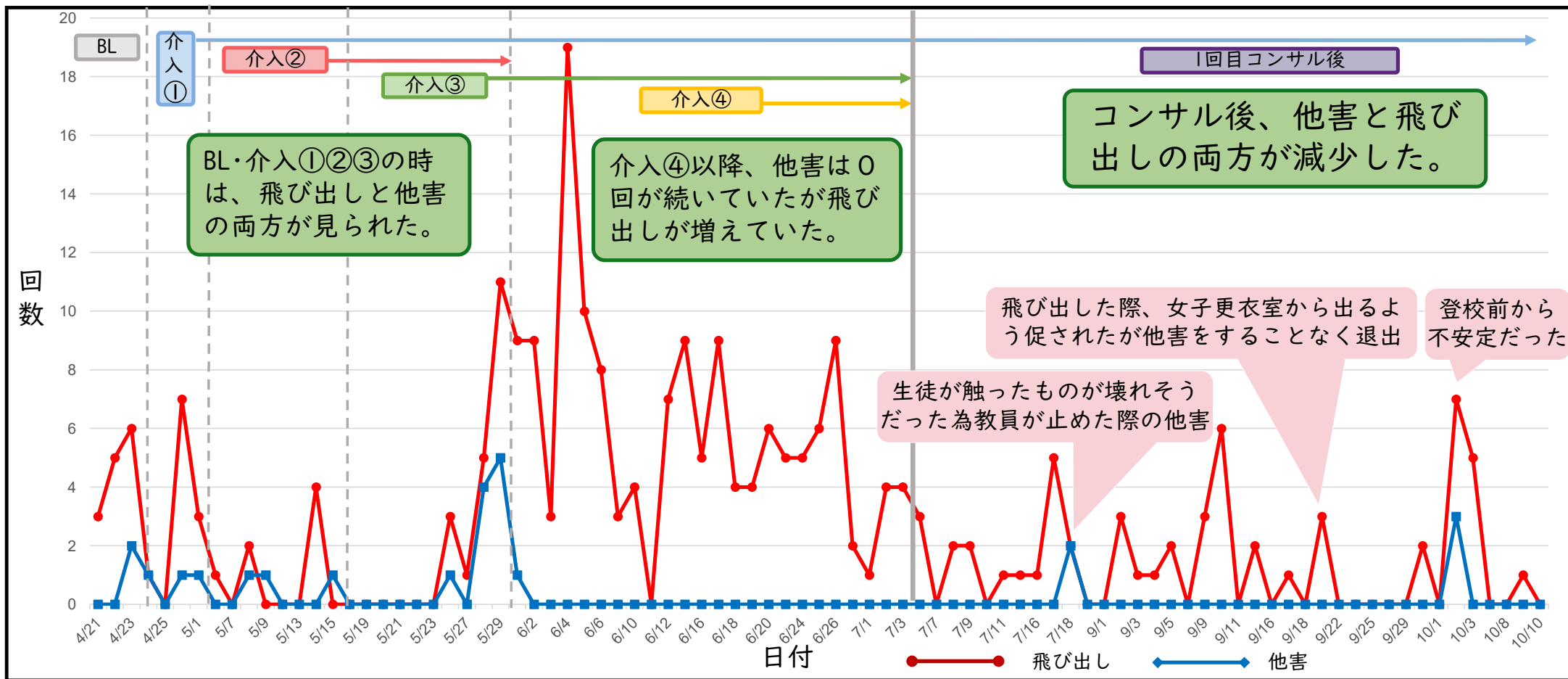


スケジュールに沿って行動できた率

一人で活動に取り組むこと(走り出しや他害、プロンプトなし)ができたスケジュール数 ÷ 1日のスケジュールの総数 × 100

→スケジュールの活動内容を簡単で短い作業的な課題にしたことにより、難しい課題や分かりづらい課題、課題の失敗や教員の指摘による飛び出しは減少し、スケジュールに沿って行動できることが増えた。

⑦実践結果 (2)



飛び出し・他害行動の1日の回数

⑧アドバイザーからの助言(第2回コンサルテーション)

- 他害と飛び出しが減ってはいるが0にしなければならない。
- 1回でも飛び出しが起きると自動強化が起きる。1回も教室から飛び出さずに過ごすことが理想である。教員の指示に従って教室から出ることは尊い行動である。
- 音楽室に行くスケジュールは現在1日に2～3回程度であるが、そのスケジュールをより多く組み込むべきである。
- 生徒が飛び出そうとしている時は未然に活動へ戻るよう促すべきである。生徒が一部の課題を取りに行く動線が、飛び出しをしようとする動線と同じである為、課題をしようとしているのか飛び出そうとしているのかの判断がしづらい状況になっている。生徒の動線を、出入り口とは離れた場所にまとめる。
- 「スケジュール以外のことはしたくなくなる」ところまでもっていけるように徹底して支援できると理想である。

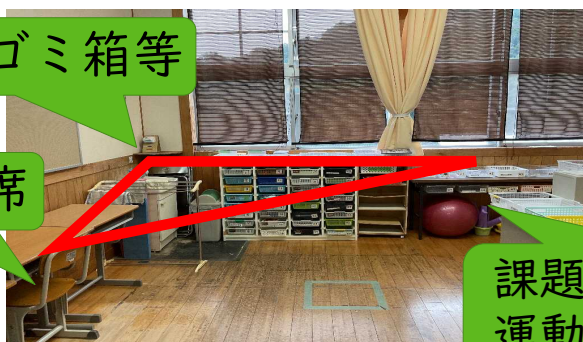
⑨第2回コンサルテーションを受けて

→教室の課題スペースや生徒がよく使う物(ふきん・ゴミ箱等)、休み時間に使う歌絵本の位置を壁側に移動させ環境を整えた。

→これまでに生徒が飛び出した時に向かうことが多かった、音楽室の前へカードを取りに行く内容のスケジュールを1時間に1~2回組み込んだ。

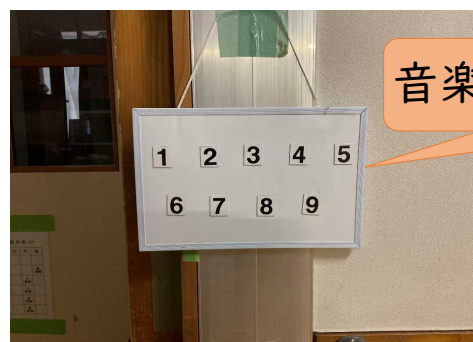
ふきん・ゴミ箱等

生徒の座席



課題や歌絵本、朝の運動で使うボール等

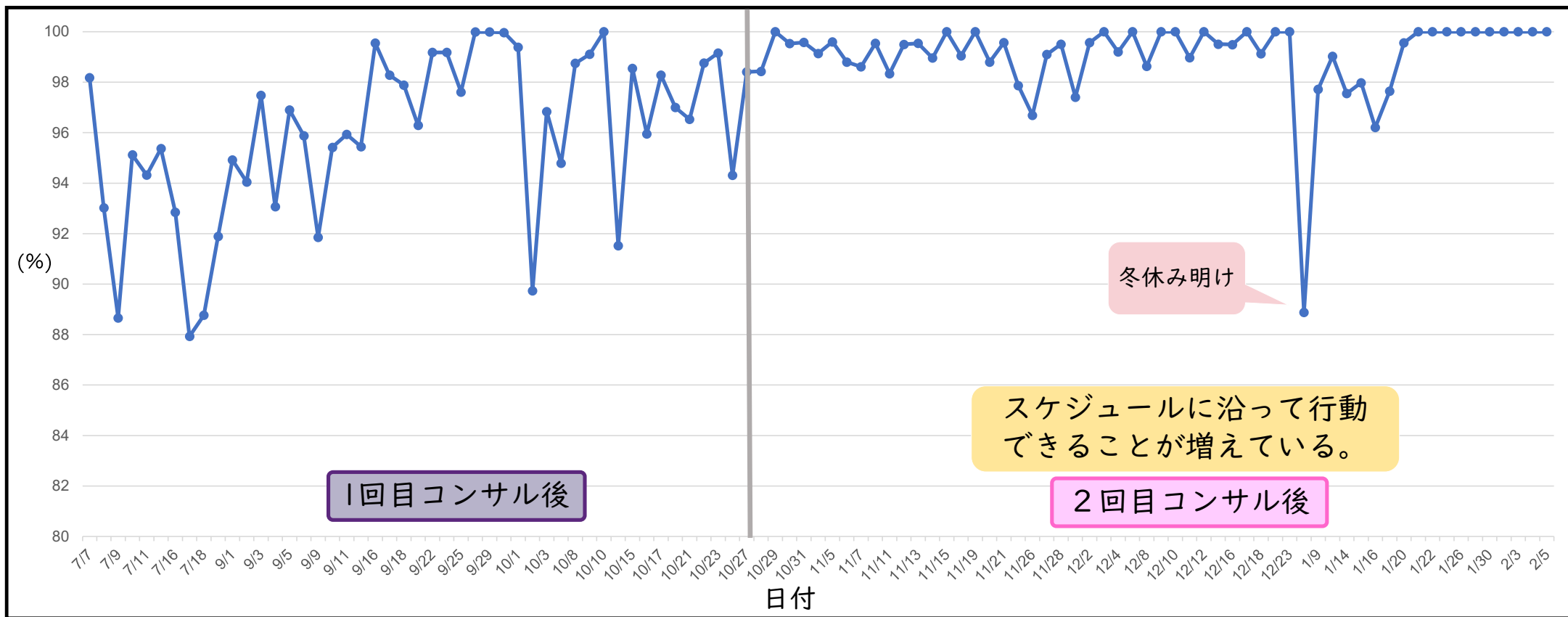
音楽室前に掲示したカード



指導手続き

- [1] 活動する時の動線がまとめられるよう教室内の配置を変更。
- [2] 各授業において教室から出る内容のスケジュールを2回程組み込み、1日に10回程スケジュールに従って教室から出るように設定した。

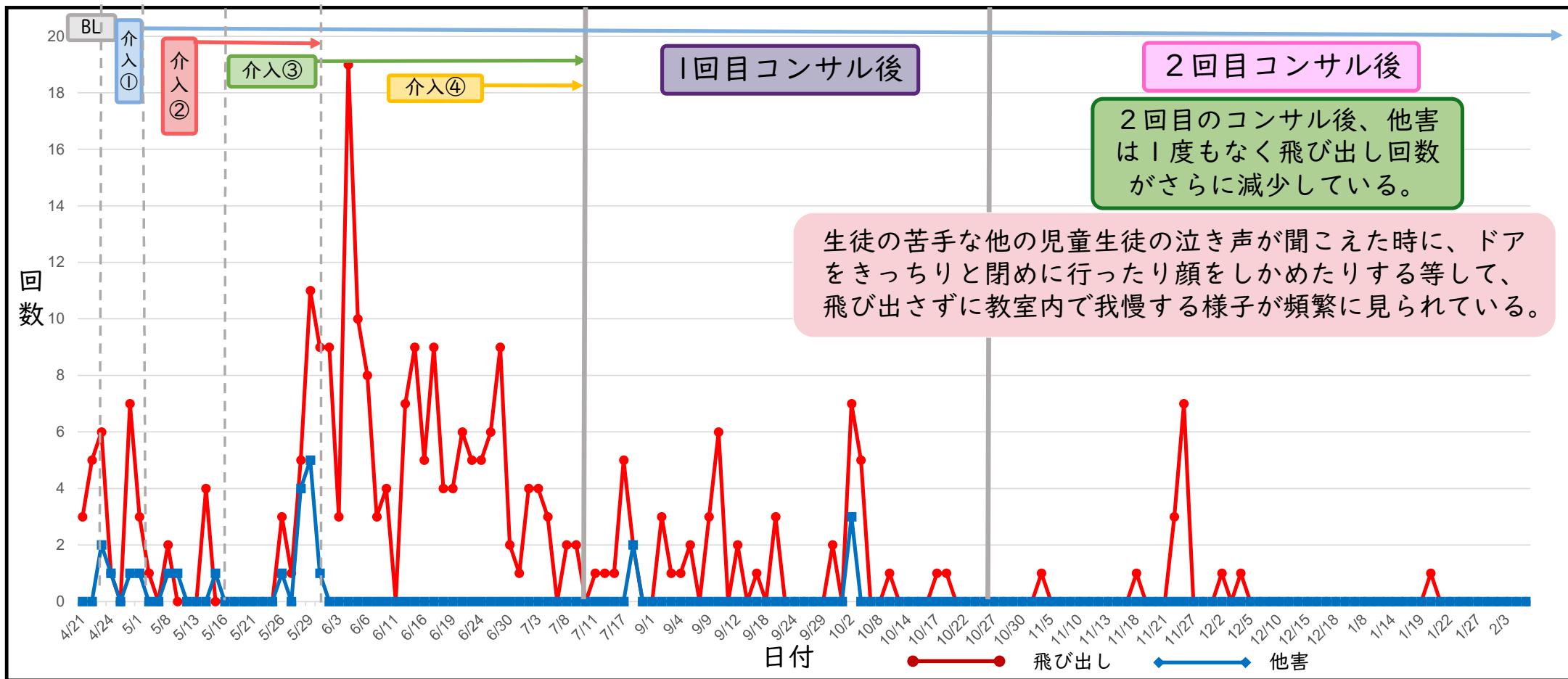
⑩実践結果（3）



スケジュールに沿って行動できた率

$$\frac{\text{一人で活動に取り組むこと(走り出しや他害、プロンプトなし) ができたスケジュール数}}{\text{1日のスケジュールの総数}} \times 100$$

①①実践結果（４）



飛び出し・他害行動の1日の回数

⑫ コンサルテーションの取り組みを通して

●環境を整える

- 学習内容を簡単な作業的な活動にすることで、学習内容の負担感が原因と考えられる飛び出しが無くなった。
- 生徒がすべき行動を細かくスケジュールに提示したため、何をすべきかが分かりやすく、見通しのなさが原因と考えられる走り出しが減少した。

●好子を多く取り入れる

- 食べ物(干し芋、ドライフルーツ、おかし)と活動(音楽室へ行く)の好子をスケジュール内に細かく取り入れることで、スケジュールに沿って行動する場面が増えた。



学習が原因と考えられる他害や飛び出しが減少した。また、他害や飛び出しといった行動が強化されなくなったことにより、他の児童生徒の泣き声が聞こえた場面や原因が特定しづらい場面等での他害や飛び出しも減少した。担任のニーズである、生徒が落ち着いた学校生活を送ることができるよう日が増えた。